

北海道の山 山行報告

(参加者) CL 鈴木憲二 鈴木愛子 (記録)

(日程) ①利尻山 H27年8月19日(水)～20日(木)

②羅臼岳 H27年8月22日(土)～8月23日(日)

③幌尻岳 H27年8月26日(水)～8月28日(金)

①利尻山

(コース) 予定では、利尻北麓野野営場登山口～頂上～沓形登山口の計画であったが、麓の宿の人が、「下山後、沓形登山口までは遠くて迎えに行けない、駕泊コースピストンだったら登山口まで送り迎えが可能、沓形登山口はバスもタクシーも少ない」とのことで、駕泊コースをピストンすることにした。

(山行タイム)

8/20(木) 駕泊の宿 4:40⇒利尻北麓野野営場登山口 5:25→長官山 8:20→利尻山頂上 10:20→
利尻北麓野野営場登山口 14:00

(記録)

8/19(水) 駕泊の利尻山荘(泊)

8/20(木) 天気 小雨 ガス深し 風強し

宿の人が利尻北麓野野営場登山口まで車で送ってくれた。そこで朝食とトイレを済ませ小雨の中出発。

6合目辺りまで、深い針葉樹の森の中を歩く。5合目辺りから、ずーっと道の両側にアキノキリンソウが咲いていて励まされた。

9合目から頂上までの間、イワギキョウ、ヤマハハコグサ、トリカブト、ウメバチソウ、エゾアザミ、イワツメクサに似た花、名前の分からないピンクの花等々が咲いていた。もう花は咲いていないのではと思っていたので、とても嬉しかった。

頂上は小雨、ガス深し、風強しで何も見えず残念であった。

登山前日に、利尻島にフェリーで渡る時も雨、登山を終えて、稚内へフェリーで戻る時も雨で、フェリーから利尻山は見えなかった。

8年前に利尻山に登った時は、行きも帰りも、船から利尻山がとても綺麗に見えたのに、今回は見えず残念であった。



利尻山頂上にて



トリカブト



名前の？の花

②羅臼岳

(コース) 予定では、岩尾別温泉 木下小屋～羅臼平～羅臼岳頂上～二つ池テン場～硫黄山～カムイワッカであったが、悪天候の為、縦走は中止、木下小屋から羅臼岳のピストンにした。

(山行タイム)

8/22(土) 木下小屋(泊)

8/23（日）木下小屋 5:00→羅臼平 9:08→羅臼岳頂上 10:15→木下小屋 14:20

(記録)

8/23（日） 天気 小雨 後 風雨強し ガス深し

出発時は小雨であったが、硫黄山まで縦走するのだ、頑張るぞという気持で出発した。

森林限界を過ぎ、大沢に着くと、所々、けっこう雪が残っていて、急傾斜でできなかったが雪渓歩きも楽しめた。そして、高山植物がまだ沢山咲いていた。エゾツツジ、エゾキンバイ、チングルマ、エゾコザクラ、イワギキョウ、エゾリンドウ、アキノキリンソウ、エゾツガザクラ等々、利尻山より沢山咲いていて、とても綺麗であった。



エゾノツガザクラ



チングルマ？ チョウノスケソウ？



羅臼岳頂上にて

頂上直下の岩清水では、湧水がチョロチョロ流れていて、手ですくって飲んだが、冷たくて美味しかった。木下小屋の管理人曰く「岩清水の水は、沢の水ではなく湧水なので、煮沸しないで飲んでも大丈夫」とのこと。

硫黄山へ縦走したい人は、頂上に登る前に、岩清水で、プラティパスに水が入る様に置いておくと、頂上から下りて来た時、水が一杯になっていて、良いと思います。その様にしている人がいたのです。それを見て、私達もそうすれば良かったと思いました。

二つ池のテン場の水は、あまりきれいではないらしく煮沸しないと使えないので、ここで補給していくと良いです。でも、秋口に、涸れたり、水量不足になる時もある由なので、最初から期待しないでください。頂上に行く前、通った時に流れていたらの話ですが……。

頂上は強風、一瞬雨もやみ、真上だけ青空が見えたが、周りの山々は、ガスで何も見えず残念であった。利尻山に続いて、天候はついてない。

頂上から羅臼平（硫黄山へ行く分岐点）まで降り、そこで、風雨がとても強いので縦走は中止にした。硫黄山からカムイワッカまで行きたかったのも、とても残念であった。

二つ池から硫黄山までの間に、熊が好きなありの巣がある由、また、雪渓の近くにも熊がよくいる由、その為に万が一の時の為に、知床自然センターで熊スプレーをレンタルした。レンタルには、レクチャーを受け、使い方の実習も受ける必要があり、それを受け、熊対策もしたのに、縦走出来ず、がっかりである。

硫黄山へ縦走する人は知床自然センターで熊スプレーを借りると良いと思います。買うと、とても高いですね。レンタル料は一日1000円、デポジット料金が2000円です。デポジット料金は熊スプレーを返しに行くと返金してくれます。

③幌尻岳

(コース) 沢コース とよぬか山荘→第二ゲートバス停留所→北電取水施設→幌尻山荘→幌尻岳→幌尻山荘→北電取水施設→第二ゲートバス停留所→とよぬか山荘

(山行タイム)

8/26 (水) とよぬか山荘 (泊)

8/27 (木) とよぬか山荘発、朝3時のシャトルバスに乗る。⇒第2ゲートバス停留所 4:25→

北電取水施設 6:25→幌尻山荘 8:53 着 9:30 発→幌尻岳頂上 13:15 13:45 発→幌尻山荘
16:20 着

8/28 (金) 幌尻山荘 5:30→第2ゲートバス停留所 9:30 着 11:00 のシャトルバスに乗る⇒とよぬか山
荘着 12:00

(記録)

8/27 (木) 天気 曇り時々小雨

とよぬか山荘発、朝3時のシャトルバスに乗る。バスの終点で朝食、トイレを済ませて出発。

北電取水施設の少し先で、この日の為に買った沢靴に履き替える。そこから幌尻山荘まで、沢を15回徒渉した。沢の水は、1番深い所で、私の膝位の深さであった。その深さの水の圧力、流れの速さを感じながら徒渉するのは怖かった。でも夫は「こんなの沢登りじゃないよ、河原歩きだよ」なんて言っていた。

一度、徒渉中にバランスをくずして四つん這いになってしまった。でも怪我がなく無事で良かった。徒渉地点は、赤いリボンやペンキで「ヒ」と書いてあり、分かりやすかった。

幌尻山荘に着くと、先ず、宿泊の手続きをし、沢靴から登山靴に履き替え、リュックの中身を整理(必要な物だけ持ち、あとは山荘に置いていく) 9:30 頂上に向かって出発。

針葉樹の森を過ぎ、ハイマツ地帯になると、周りの山々がうっすらと見えた。道の左側はお花畑になっていて、アキノキリンソウ、イワブクロ、イワギキョウ、ウメバチソウ、ミヤマリンドウ、等々がまだ咲いていて嬉しかった。チングルマが咲き終わり、ひげのような状態のものが沢山あった。その辺りで、キタキツネに会った。人間を恐れずゆったりと歩いていて可愛かった。

ウラシマツツジ、エゾフウロの葉が紅葉していて、とても綺麗であった。

頂上では雨がやみ、晴れではないが、遠く大雪山等々の山が見え、嬉しかった。

やったー！ これで100名山の頂きを踏破である。頂上にいた他の2パーティの人達も祝福してくれ、感無量であった。



戸鶯別岳と北カール



ウラシマツツジの紅葉



幌尻岳頂上にて

往路を下り、幌尻山荘着 16:20。朝2時半に起き、3時のバスに乗り、4:25 から歩き始め、長い一日であった。疲れた。(沢靴に履き替え準備30分、小屋で宿泊手続き、登山靴に履き替え、リュックを準備に30分、頂上で休憩30分を含む)

8/28 (金) 天気 曇り

幌尻山荘より下山の時も、沢の水は、増えていなくて、順調に徒渉する事が出来、良かった。

11時のシャトルバスに乗り、12時にとよぬか山荘に着いたのだが、3時までチェックイン出来な

い由、麓の平取り町の日帰り温泉に行き、汗を流した。

○北海道の山旅を終えて

天気が良くなかったが、羅臼岳と幌尻岳に登れたことにより、目指していた日本百名山を踏破できた事がとても嬉しい。感無量である。

幌尻岳に登りたい人は、沢登りの経験をしておくと良いと思う。そして沢登りの経験のあるしっかりしたリーダーと行くのが良いと思う。

私は、持病（リュウマチ）があり、身体を冷やすと、痛みが出るので、沢登りをしてこなかったが……。

身長150センチの私の膝位の水の深さの所で、流れが速く、水の圧力を感じ、徒渉する時、バランス力がとても必要である。1歳でも若い時に幌尻岳を登るようお勧めします。行動時間が長く疲れるし、66歳になってからは、バランス力が弱くなってくるので。

今まで知らなかったことで、北海道に行くにあたり、下調べで知った事を、これから北海道の山へ行く人に参考になると思う事をお知らせしたいと思う。

それは「エキノコックス感染症」についてである。

北海道の沢の水は要煮沸である。煮沸しないと、キタキツネの糞便内のエキノコックス属条虫の幼虫に起因する、エキノコックス症に感染する危険があるそうである。

10年も潜伏期間があり、肝臓、肺、腎臓、脳などで幼虫が発育し、症状がでたら、死に至る事が多いそうである。恐ろしいですね。

幌尻山荘で、翌日の行動中に飲む水作りをしたのだが、煮沸してさまし、水筒に入れるまで時間がかかり、大変であった。

次の目標は？と、色々考えたが、持病の体調の事もあり、その時その時、体調を見ながら、登りたい山、登れそうな山に登っていこうと思う。